

◆ 景気回復見通しの日本、ドルで考えると不景気突入？

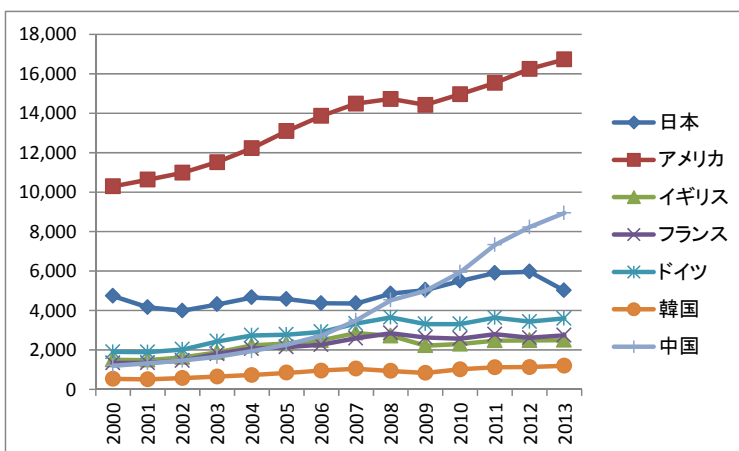
国民経済の規模や国際競争力を比較する場合は、国内通貨では比較できないため、一旦、ドル換算することとなる。

我が国の景気は長期低迷、「我が国はデフレで、円高で失業率が高く、国の借金が増え続け、景気が低迷」していたがアベノミクスで景気が回復すると国民の多くが信じている。

ところが、ドルベースで国際比較すると我が国はこの5年間は中国、アメリカに次いでGDP成長率は高く、好景気だったということになる。(図表 1,2 参照)

しかも、実際の失業率もこれらの国の中では最も低い。

図表 1 ドルベースの GDP (単位: 十萬ドル)



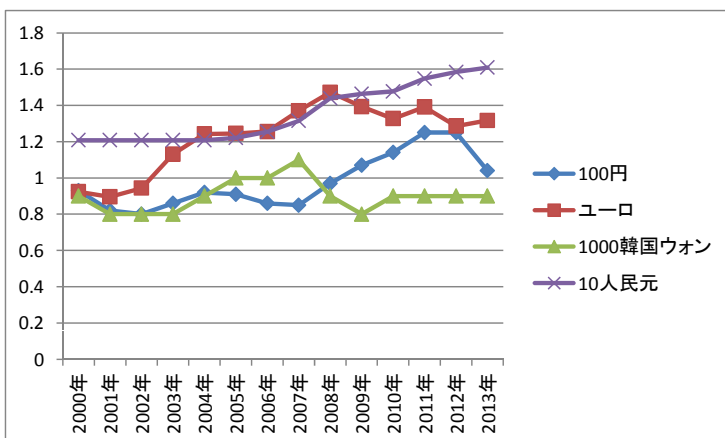
図表 2 日本の平均 GDP 成長率

	5年平均 2007-2012	10年平均 2002-2012
日本	6.5%	4.1%
アメリカ	2.3%	4.0%
イギリス	-2.8%	4.3%
フランス	0.2%	6.0%
ドイツ	0.6%	5.5%
韓国	1.5%	7.0%
中国	18.7%	18.9%

2013年、「2割程度の円安になり、好景気になる」と大方の日本人は信じているが、逆にGDPは大きく減少する。海外から見れば、「東日本大震災の影響で輸入エネルギー量が増えて、日本は不景気に転じ、円安になった」ということになっているのではないだろうか。

この落差は為替に起因しているのと言うまでもないが、GDPを押し下げる円安を日本人として喜ぶべきだろうか。本当に円安で暮らしは豊かになるのか考えものである。

図表 3 ドルから見た通貨の強弱 (単位: ドル)



図表 4 ドル対比の為替の上昇率

	5年平均 2007-2012	10年平均 2002-2012
日本	8%	5%
ユーロ	-1%	3%
韓国ウォン	-4%	1%
人民元	4%	3%

出典: 図表 1 から 4 は、Principal Global Indicators、世界経済のネタ帳のデータから作成